

機関番号：35305

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520218

研究課題名 (和文) 19 世紀アメリカ文学に及ぼす写真の影響に関する多面的研究

研究課題名 (英文) A Multifaceted Study of Photography's Impact on 19th Century American Literature

研究代表者

中村 善雄 (NAKAMURA YOSHIO)

ノートルダム清心女子大学・文学部・准教授

研究者番号：00361931

研究成果の概要 (和文)：19 世紀アメリカ作家達は写真自体の多様な特性を、一つの科学として、またメタファーとして自らの作品に織り込んでいる。その写真の多面的特性 (魔術的特性、科学性、写実性、代理表象性、大量複製性) は、ロマンス小説、リアリズム小説、探偵小説、戦争小説といった作品ジャンルと密接に結びつき、写真は被写体を再生するテクノロジーとしてだけでなく、これらの小説ジャンルを象徴し、且つ発展させる重要な要素として機能している。

研究成果の概要 (英文)：American authors in the 19th century take advantage of the manifold features of photography: both the science itself and as a metaphor in their literary works. Its diverse characteristics such as fantasy, reproduction, realism, representation, mass-duplication, closely link it with the following literary forms: romance, realism, detective and war novels in the 19th century. Photography functions not only as the technology to reproduce a subject, but as a significant factor to symbolize and develop each genre of literature.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：ヨーロッパ語圏文学

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：19 世紀アメリカ、文学論、写真論

1. 研究開始当初の背景

19 世紀アメリカ文学と写真に関する学際的研究という本課題を実施する上で、以下のような学問的状況があると推察された。

(1) 19 世紀における視覚文化の発展はヨーロッパ、特にフランス、イギリスが中心であった。実際、19 世紀前半から発展したパノラマ

やディオラマ、ファンタズマゴリア、19 世紀中庸から始まる万国博覧会、1839 年に発明された銀板写真、これらの一連の大衆的視覚文化装置はいずれも両国が発祥となっており、実際、19 世紀視覚文化を扱った良書として次のような著書 [Thomas Richards. *The Commodity Culture of Victorian England: Advertising and Spectacle, 1851-1914.*

Stanford UP, 1990. や Vanessa R. Schwartz. *Spectacular Realities: Early Mass Culture in Fin-de-Siècle Paris*. U of California P, 1998.]が挙げられるが、それらの著書名から分かるように、ヨーロッパ偏重は否めない。他方、19世紀アメリカの大衆的視覚文化についての研究書は少ないという学問的現状が挙げられる。

(2) 本課題の対象となる文学と写真の関係性に関しても Hillis Miller の著書 [Illustration. Harvard UP, 1992]に代表されるように、ヨーロッパ、特にフランス (Charles Pierre Baudelaire や Stéphane Mallarmé 等)、イギリス (John Ruskin 等) の文筆家が研究対象となることが多い。アメリカの写真の点からみれば、Alan Trachtenberg の大著 [Reading American Photographs. The Noonday Press, 1989]がまずその筆頭として挙げられるが、基本的にはアメリカの写真史であり、アメリカ作家への言及は一部に留まっている。国内に目を向けると、視覚文化と文学との学際的研究について高山宏の一連の仕事 [例えば『目の中の劇場 — アリス狩り』青土社、1995 など]は驚嘆すべき業績であるが、19世紀の絵画を初めとする視覚文化は頻繁に取り上げるが、写真については研究対象としていない。Susan S. Williams 著の図書 [Confounding Images: Photography and Portraiture in Antebellum American Fiction. U of Pennsylvania P, 1997]といった南北戦争以前の写真と文学との関係について論じた書もあるが、この図書は銀板写真に対して焦点を当てており、大量消費時代における写真は研究の範疇に入っておらず、19世紀全体にわたる写真とアメリカ文学研究の網羅的な研究についてはこれまで特筆すべきものがないというのが現状であった。

2. 研究の目的

(1) 本研究課題の目的は、従来の視覚文化的視座からの文学研究において軽視、あるいは無視されていた写真の多様な特性 (魔術的・疑似科学的特性、写実性、代理表象性、科学性、大量複製性) に焦点を当て、19世紀アメリカ文学研究と写真論およびそこから派生する諸問題との有機的結合を図り、その結節点に立ち現れる新たな文学の読みの可能性を探求することであった。

①各作家の写真観を明らかにすると共に、写真から彼らがどのような影響を受け、それが執筆行為や描写手法、作品のスタイルにどのように反映されているか、19世紀アメリカ作家達の写真に対する言及や反応、あるいは彼らの作品に織り込まれた直接的あるいは比喩的レベルでの写真の影響とこの視覚装置

から派生する諸問題を包括的に検討し、19世紀アメリカ作家達の写真の受容形態について探る。

3. 研究の方法

基本的な研究方法は、国内外での資料収集を経て、原稿を作成し、それを学会や研究会にて発表し、他の研究者のアドバイスや指摘を参考に、発表原稿の修正あるいは内容の充実に努め、最終的には論文あるいは図書という形で研究成果を公開した。以下はその具体的な内容及び手順である。

(1) 本研究テーマに関するアメリカ文学作品及び写真関連図書を随時購入した。

(2) 絶版の図書や購入が困難な図書、あるいは雑誌論文等を入手するために、国内主要大学図書館にて資料収集を行ったり、本務校の複写サービスあるいは図書貸借サービスを利用して、資料収集に努めた。

(3) 国内では、入手が困難な一次資料 (特に写真) の収集及び直接的検証については海外の研究機関にて行なった。

①平成20年度には、3月の春休み期間中に、ハーヴァード大学図書館、ニューヨーク市立図書館、ソロー・インスティテュートにて、主にソロー、ホイットマン、ポー、トウエイン、ホーソーンと写真の関連性について資料収集をした。

②平成22年度についても、3月の春休み期間中に約2週間にわたり、ハーヴァード大学のホートン、ラモント、ワイドナーの各図書館にて、南北戦争時の資料収集ならびに論文執筆に従事した。特に、ホートン図書館では、キュレーターから Matthew Brady の撮影した Henry James 父子の銀板写真など、貴重な写真を拝見する機会を得た。

③平成23年度は、8月下旬から9月上旬の約2週間にわたりロンドン大学を中心に、ハーヴァード大学等、アメリカの図書館では入手し難い資料を収集した。

(3) Rolands Barthes, Susan Sontag, Walter Benjamin, Serge Tisseron の写真論、John Berger や Jonathan Crary の視覚論などを踏まえて、対象となる作品解釈への写真論・視覚論を、論文作成時に転用及び応用した。

④研究の諸段階において、その一部を日本アメリカ文学学会や日本ナサニエル・ホーソーン協会などの学会にて発表し、他の研究者からの意見やコメントをフィードバックし、論文作成時の参考とし、内容の充実に努めた。

4. 研究成果

19 世紀アメリカ作家達は写真自体の多様な特性及びそれが喚起する大衆イメージを直接あるいは比喩的レベルにおいて自らの作品に織り込んでいる。写真の多面的特性は、ロマンス小説、リアリズム小説、探偵小説、戦争小説といった作品ジャンルと結びつき、かつこれらのジャンルを発展させる要素として機能する。以下、その具体的な内容について述べる。

(1) 銀板写真発明当初の疑似科学的・魔術的イメージはロマンス小説全体の世界観を具現化している。例えば、Nathaniel Hawthorne は銀板写真発明当時にブラックボックスと化した銀板写真の有する魔術的特性を *The House of the Seven Gables* のなかに取り込んでいる。具体的に作品では、銀板写真を被写体の隠された性格を暴き出す魔術的装置として位置づけ、それがロマンス小説と結びつくことが指摘できる。一方で、同じ銀板写真は、写真の異なる特性、つまり科学的側面をも示しており、その写真は人間の身体の種類や身体の履歴を暴きだしている。また写真は二つの死体の類似性を証明し、同時に両者の死因を解き明かす証拠として機能しており、写真の視点からこの作品を読み変えると、一種の探偵小説的側面が明らかとなってくる。

(2) Henry James の長編 *The Tragic Muse* においては、芸術としての銀板写真と大量複製としての写真に対する作者の区別がみられ、同時に各々の視覚媒体に対する James の考えが彼の芸術感や時代感覚と密接に結びついていることが分かる。この作品には写真のイメージを帯びた 2 人の人物、つまり Gabriel Nash と Miriam Rooth が登場するが、そのイメージは対象的である。審美主義者である画家 Nash はモノ・メディアである銀板写真のイメージを帯び、彼の突然の「消滅」は「美しく失われた芸術」である銀板写真の性質と重ね合わされ、19 世紀最後の四半世紀において芸術そのものの自立性の保持が困難な状況を物語っている。一方、新進女優の Miriam はマス・メディアである大量の写真に囲まれ、彼女の演劇世界が写真や広告と不可分であり、大量複製時代の申し子と化している。James はこの 2 人の登場人物を対照的な写真イメージと絡めることで、作家として審美的な芸術世界を描写したい想いと、リアリストとして芸術世界が否応なく宣伝広告に蹂躪されている現実を描かなければならない想い、この相克する感情を *The Tragic Muse* に織り込んでおり、この 2 種類の写真を通して、James の芸術観を窺い知ることができる。

(3) 写真の代理表象性については、挿絵としてのイラストレーションと言語テキストの関係性に関する Mark Twain の考えを通して、考察されうる。Twain は文学テキストとイラストレーションの関係において、前者の優越性を唱えた。イラストレーションによって瞬時に凝固された物語の一部を明確に説明する言葉が不在すれば、読者はイラストレーションがもつ意味解釈の複数の可能性を前に躊躇するというのである。Twain は実際、*Life on the Mississippi* のなかで、言語の不在がイラストレーションの無力化をいかに決定付けているかを物語っている。彼は南北戦争時の「リーとジャクソンの最後の会見」という題名の絵画を引き合いに出し、「題名がなければ何をあらわしているのか分からない」と言い、タイトルの不在がイラストレーションのアイデンティティの不安定さを生み出すことを浮き彫りにしている。写真についても同様であり、写真はその写実的な再現性ゆえに、全てを物語る媒体と錯覚されうるが、言葉無くしては観察者は写真の場面を特定化することができず、写真の限界性と言語の優位性が窺い知れる。また、言語の優越性に対する Twain の支持から、視覚の時代といえる 19 世紀のなかで、作家達が自ら言語世界を防衛しようとする姿勢を読み取ることができる。

まとめ

写真というこれまで文学研究の中で軽視あるいは無視されてきた視覚媒体をキーワードにして文学作品を読み解くという本課題の研究手法は、文学と大衆文化に関する学際的研究に位置付けられる。それは今日の文学研究がカルチュラル・スタディーズや表象文化といった学問的潮流のなかで大衆文化にスポットが当てられている中での一つの研究成果として認識されうる。また、本研究の成果を土台に、時系列的に繋がる、20 世紀アメリカ文学と写真の学際的研究への発展及びその通時的研究が見込めると推察される。一方で、同時代的に見れば、写真だけではなく、19 世紀の他の大衆的な視覚装置、具体的にはパノラマやファンタズマゴリア、あるいは万国博覧会といった媒体との関連研究への発展する試みとも言え、本研究により、「視覚中心主義」による「眼による統治」の時代と言われている 19 世紀後半の時代諸相の一局面を明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

- ① 中村善雄、「ホロコースト映画にみる逆転の発想と希望としてのユーモア」『シユレミール』No. 10、2011、査読有.
- ② 中村善雄、「文学作品にみる文化の断面—色彩・名称」、『I' NEXUS』No. 4、2011、査読無.
- ③ 中村善雄、「消失する銀板写真と複製される写真—ジェイムズの美学と現実の感覚—」『中四国アメリカ文学研究』第46号、日本アメリカ文学会中四国支部会誌、2010、pp.1-6、査読有.
[http://www.chushi-als.org/studies(46-2010).pd.pdf]
- ④ 中村善雄、「大学英語教育をめぐる現状と文学教育の意義」、『I' NEXUS』No. 3、異文化情報ネクサス研究会、2010、pp.53-7、査読無.

〔学会発表〕(計6件)

- ① 中村善雄、「Henry Jamesの現実感覚と時代認識—写真、広告、消費—」、日本ナサニエル・ホーソーン関西支部例会、2011年3月29日、関西大学.
- ② 中村善雄、「Henry Jamesの戦争体験—刻印された身体と動揺するアイデンティティ—」、中四国アメリカ文学会秋季研究会、2010年9月11日、広島経済大学.
- ③ 中村善雄、「対置する写真—The Tragic MuseにみるJamesの過去の感覚」、欧米言語文化学会関西支部例会、2009年9月9日、同志社大学.
- ④ 中村善雄、「Henry Jamesと戦争—南北戦争、第一次世界大戦、アイデンティティ—」、関西大学英文学会第四回大会シンポジウム、2008年12月14日、関西大学.
- ⑤ 中村善雄、「19世紀アメリカ作家と写真」、異文化情報ネクサス研究会創立10周年記念定例年次大会、2008年11月1日、北海道大学.
- ⑥ 中村善雄、「ヘンリー・ジェイムズと写真—『悲劇の美神』を中心に—」、中四国アメリカ文学会秋季研究会、2008年9月13日、安田女子大学.

〔図書〕(計3件)

- ① 中村善雄、他、関西大学出版部、『英米文学と戦争の断層』、2011、pp.137-154.
- ② 中村善雄、他、音羽書房鶴見書店『実像への挑戦—英米文学研究』、2009、pp.137-150.
- ③ 中村善雄、他、学術出版会、『デジタル時代のアナログ力』、2008、pp.35-53.

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 善雄 (NAKAMURA YOSHIO)

ノートルダム清心女子大学・文学部・
准教授

研究者番号：00361931

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：